

IQ150の無期囚がひも解く中国とのフェアな付き合い方
和製レクター博士の社会学！

『**堀の中の情報解析学 中国共産党大解体**』

(著者)美達大和

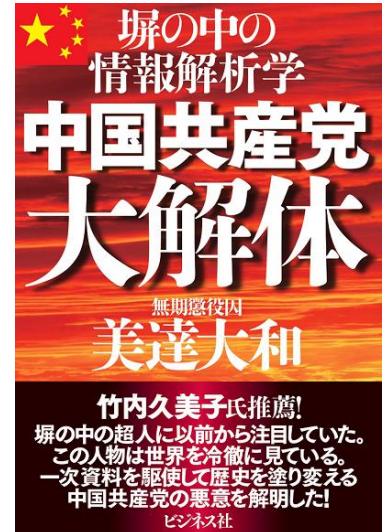
(価格)1,760円(税込)〈発売日〉2021年11月4日〈出版元〉ビジネス社

株式会社ビジネス社(東京都新宿区 代表取締役:唐津隆)は、新刊書籍『堀の中の情報解析学 中国共産党大解体』を2021年11月4日に発売いたしました。ぜひ、貴メディアにてご紹介いただけますと幸いです。

■中国共産党の思考法を犯罪心理学を駆使して徹底解体する和製レクター博士の社会解析学！

本書は無期懲役囚として服役中の著者が、日中間の歴史、日中戦争の原因について掘り下げて叙述するとともに、日中国交回復の背景、中国共産党の日本浸透工作、中国共産党と習近平国家主席の狙いなどを記した一冊です。

日中国交回復は、田中角栄にてなされたが、当時、中国共産党の首脳、毛沢東、周恩来は、最初から世界のパワーポリテックスの中で動いていた。フルシチョフによってなされたスターリン批判により、中ソ関係は悪化し、米国、日本の取り込みは、あくまでも中国の世界戦略のうちであった。その後の鄧小平による日本財界人の取り込みとは逆に、いわゆる反日の元祖と言われる江澤民でなく、一見親日を装った鄧小平こそが、天安門事件以降の反日を指導したということを明らかにする。中国共産党の邪悪な戦略は、歴史を辿れば、その淵源は日中戦争の勃発の陰に常に潜んでいた。張作霖爆破事件、盧溝橋事件など中国共産党の謀略がちらつくのである。日中戦争を避けたがっていた蒋介石国民党を戦争に引き込み、日中戦争を本格化したのは、中国共産党であった。中国共産党は戦力を温存し、日中戦後、日本の武器を手に入れて国民党を追いやったのだ。歴史的事実、当時の日本国民の雰囲気など、当時の新聞、雑誌を克明にあたって、日本が巻き込まれていった戦争の真相にフェアに迫る。



◆目次

- 第一章 堀の中の情報整理について 第二章 ねじ曲げられた中国との歴史
- 第三章 戦後中国との交流 第四章 対中国: 尖閣諸島と領土問題
- 第五章 日中の防衛力を検証する

著者: 美達大和

1959年生まれ。無期懲役囚。刑期10年以上の受刑者が収容されるLB刑務所に服役中。これまでに8万冊以上の本を読破し、現在でも毎月100冊以上の本に目を通す。ブログにて、ブックレビューを発表。その冷徹かつ詳細な分析は、和製レクター博士とも言うべき鋭さを持つ。本書では、その独特の眼光で、中国共産党の邪悪な思考を初めて読み解く! 著書に『人を殺すとはどういうことか』『死刑絶対肯定論』(ともに新潮社)、『ドキュメント長期刑務所』(河出書房新社)、『私はなぜ刑務所を出ないのか』(扶桑社)、『人生を変える読書』(廣済堂)、『女子高生サヤカが学んだ「1万人に1人」の勉強法』(プレジデント社)、『日本と韓国・北朝鮮 未解決問題の真実』(育鵬社)。小説では『マッド・ドッグ』(河出書房新社)、『堀の中の運動会』(バジリコ)、『牢獄の超人』(中央公論新社)がある。

【お問い合わせ先】株式会社ビジネス社 広報担当: 松矢 〒162-0805 東京都新宿区矢来町114番地 神楽坂高橋ビル5F

E-mail : matsuyapress@gmail.com 携帯: 09072611982 TEL03-5227-1602 / FAX 03-52271603

著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。